

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290900131		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム船橋海神		
所在地	千葉県船橋市海神5-29-20		
自己評価作成日	平成28年1月27日	評価結果市町村受理日	平成28年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成28年2月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様の気持ちを汲み取り、散歩や歌を積極的に行っています。お一人お一人に合わせた個別支援を中心に職員と一緒に生活している空間や気持ちになっており、お互いが支え合う関係性になっております。  
平成26年11月にオープンし現在、1年3ヶ月が経ちますが次第に地域との交流も強くなってきており、2月からは定期的にボランティアの方が歌のみではなく傾聴や畑の手入れを行って頂ける関係にもなってきました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

- 京成電鉄海神駅から徒歩10分の、国道に面しやや奥まった住宅街に立地した新設ホームです。付近にコンビニ・レストラン・スーパー・公園等もあり、訪問・買い物に便利です。敷地が比較的広く、駐車場・緑地・家庭菜園もあり、日当たりが良く、居室・玄関・リビング兼食堂・談話室・職員休憩室兼更衣室等にスペースが広く取られ、利用者・職員が共に快適に過ごせる様に配慮されています。
- サービス面では、利用者本位を目指し、職員は開設後間もない多忙に拘らず、利用者の個別対応(食事、散歩、運動、レクリエーション、趣味、入浴、居室等)に努めており、利用者は平均年齢88歳(90歳超8名)と高齢にもかかわらず、比較的明るく元気に過ごしています。
- 医療機関と連携し、条件付きで看取りサポートを行っており、既に2名の実績があります。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	夕礼を通して毎日の申し送り、会議にて運営理念を唱和し理解とケアの統一に努めている。	理念3か条「①その人らしい快適で穏やかなシニアライフ支援、②心を込めた親切なサービス、③地域の人々との触れ合いを大切に」を掲げ、職員は、夕礼時や会議時に唱和し、毎日のサービスで実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	駐車場を利用し、地域の人々とは触れ合える環境を定期的実施している。	町内会に加入し、散歩時の挨拶、ボランティアの受け入れ(家庭菜園作り、傾聴、ハーモニカ等)を行っています。ホーム長は、地域交流の意義を理解し、開閉時間もない多忙時にも拘わらず地域交流を進める他、系列事業所と協力して認知症啓発活動を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	千葉周辺の同法人の事業所と協力体制のもと、地域の方へ向けて認知症を理解して頂けるよう勉強会を開催しています。その中で、支援方法や事例を通して認知症の周辺症状が緩和した内容を発表しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の日頃のご様子やケア内容をご家族様と共有し、利用者様に何が良いのかを話し合っている。	会議は、年5回利用者家族と職員で開催しています。議題は、行事報告、状況報告(利用者・職員)、発熱・転倒時対応報告、健康管理表説明等について、後半は家族との個別話し合いの形を取っており、運営推進会議の条件を満たしていません。	年6回以上開催を目標に、地域包括支援センター、自治会長、民生委員等の参加を得て、外部評価結果、ひやりはっと・事故報告、トピックス等についても話し合うことが望まれます
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員・在宅支援の方たちに取り組み方法や、助言を頂き情報を交換している。	必要な都度市担当に報告・相談しており、年4回の福祉施設事業所連絡会に参加し、市担当からの指示・連絡事項の情報を得て、運営に役立てています。初回運営推進会議に地域包括支援センターに声を掛けましたが、日程が合わず欠席でした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを各ユニットに設置し常に高い意識を保つ様にしている。又、会議の中で身体拘束防止の研修を取り入れている。	交通量が多い国道に面していますが、昼間玄関の施錠はせず、ユニット出入りに風鈴、玄関にはチャイムを取り付け、職員は見守りを心がけ様子を見て声かけしています。年1回社内研修を行っていますが、本部指導により回数を増やす予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に高い意識を保つことによって職員同士でも言葉選びや内容を話し合い、虐待に繋がらない環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターの方と話し合い、ご家族様・ご利用者の想いの実現について話し合っている。又、成年後見制度の活用も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはその都度、ご質問にお答えしている。又、ホーム保管用とご家族様用の契約書をご用意し説明、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や来所時には管理者のみならず、スタッフからも直接的に日頃のご様子を伝えている。	利用者からは日頃、家族からは来訪時、電話連絡時、介護計画作成時、運営推進会議時、家族会時(年2回)に意見・要望を聞き、運営に反映するように努めています。又本部による独自のアンケート調査が実施されています。	現在利用者本位で個別対応サービスに努めていますが、外部評価や本部によるアンケートで出た家族要望に応え、同時並行で速やかに改善・実施する事が望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談の実施、毎月の全体鍵・ユニット会議を設けている。又、毎日の申し送りの中で提案を言える環境がある。	ホーム長は、職員から日頃、毎月の全体会議、数ヶ月毎の個人面談で意見・要望を聞き、運営に反映する様に努めています。又本部実施のアンケート調査も参考にしています。只従来職員不足状態があり、本部と相談の結果、徐々に改善に向かっていきます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から話し合いや、定期的な個人面談を行って意見や悩みを聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外問わず本人に合った研修を実施したり紹介し行ってもらうように進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流活動やGH協議会に参加し情報共有を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員にはアセスメント表、ケアプランに目を通して頂いている。又、入居後は現状把握(会話内容、行動内容、身体内容)を申し送りし、入居者様との関係作りに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様、ご家族様の要望をお聞きし、その後も連絡を取り合い、状況報告やケアの方向性を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞き、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の生活の要望を取り入れた中に、残存機能を把握した上で、家事や共同生活の場において、他の入居者様の懸け橋となるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人、ご家族、施設が一緒になり、絆を保てるように悩みを共に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人に合った個別レクや馴染みの場所に行ったり、今までの関係を崩さない様に、ホームに直接、又は、電話で連絡を取り合える環境が出来ている。	週5日の頻度で来訪する家族や月2~3回等様々ですが、一緒に散歩や外食、馴染の床屋に出掛けています。ご主人の病院に見舞いに行ったり、電話を掛けたり手紙を出す事を手伝って、馴染のひととの関係が継続できるよう支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が孤立する事の無いように、スタッフが懸け橋となりレクリエーションや会話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族様の許可がおりている方には別施設へ訪問している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の時間帯、散歩の回数や距離、妹に会いたいなど、御本人やご家族に相談し思いの実現を本人本位にて検討、実施している。	契約時のアセスメントで、本人の意向や思いを把握する様になっています。計算が得意な人に計算の作業、寒い時は廊下での歩行練習、薬の設定を自分でやる人等、個々が希望する事を押し付けることなく、自然にできる様に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、ご家族に今までの生活歴やご様子をお聞きし、一人一人の居場所やその人らしさを追求している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	古今居合わせた生活リズムを把握してその日その日の感情や身体能力。又、本人の希望に合わせて過ごし方を提案している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、ご家族、医療関係者と話し合い、その方に合った介護計画を作成している。	介護計画はユニット会議で話し合い作成しています。家族の意向は、来訪時や自宅訪問時の説明・聞き取り、利用者からは日常の様子から汲み取っています。又、往診医の意見を反映し、3ヵ月で見直しをしています。変化時はその都度見直す様になっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務交替時の夕礼にて一人一人の状況の報告やケア内容にて情報を共有している。又、出勤者は勤務交替時に関わらず、情報共有を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方、一人一人に合わせて長時間の散歩や郵送物を一緒にポストに届けるなど個々のニーズに合わせて支援サービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪や買い物を近所のスーパーに行き、今までの暮らしを継続し地域との共存に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ドクターランド船橋店の往診医と些細な点でも連絡を取り合っている。その日の受診者でなくても医師と相談し診て頂くなど臨機応変にたいおうしている。	月2回内科医による訪問診療があり、他科受診は紹介で専門医が来ています。通常は往診ですが、緊急時は職員が付き添い外来受診しています。家族が希望する病院への紹介や、往診医とは24時間体制を取るなど、適切な医療支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の異変に関しては些細な事でも情報共有を行っており、早期発見や再発防止に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一週間に一回以上の面会を行い、現状の把握や早期退院、その後の支援に関わる事を病院側と話し合いを設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの状況を含めて今後の方向性を話し合っている。又、状況や段階に応じて医療従事者、御家族を交えて話し合いが出来る様に努めている。	契約時に4条件を家族に説明し、同意を得、終末期には再度医師、家族、ホーム長が話し合い、病院側の看取り書式に同意をもらう様になっています。開設以来2名を看取っていますが、終末期は家族が泊まるということを条件とし、施設は看取りサポートの立場で支援を行っています。職員研修も年2回実施済みです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットに緊急対応マニュアルを設置し、常に高い意識を保つようにしている。又、定期的に緊急時の対応を研修として取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練。昼・夜の別々の防災訓練を実施している。	昨年6月に消防署立会い訓練を実施し、夜間想定自主訓練は4月に延期になっています。スプリンクラー初め一連の防火装置・器機は完備され、緊急時対応表・連絡先も掲示され、備蓄は10日分程準備されています。	年2回避難訓練と反省会の定期的実施、又、最近各種災害が心配されるうえ避難弱者を抱えている事から関係者で災害について話し合う事(防災訓練含む)、及び防災グッズを含め備蓄内容を見直すことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	根本的には職員にバラつきがないように対応しているが、ご利用者様と職員の信頼関係を含めて尊重し声掛けを行っている。	ホーム内で統一した支援になる様職員を指導しています。声かけは家族からの要望があれば、「～先生、名前」で呼ぶ等個々に合わせた対応をしています。不適切な対応があればホーム長が呼んで注意し、月1回の全体会議でリーダーが全員に指導する様にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の意向を表せるように、職員は決めるように話を持ちかけない。意向を表せるような声掛けを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活歴を含め、その人らしいを実現出来る様に入浴や日々の過ごし方にそえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人が衣類を選べる方はご本人で決めて頂く。又、季節に合わせて職員からも提案という形でおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、食器洗い・拭きなど個々の身体機能に合わせて職員と一緒に支援している。	系列会社から月1回献立表が届き、食材は職員が買い物に出掛けています。利用者は盛り付けや食器拭き等、職員と一緒にしています。外食したり、個別レクリエーションとして、誕生会に家族と一緒に食事(フレンチコース)する等、食事を楽しむ支援に取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が一日を通して一目でわかるような書式を活用している。食事形態や水分形態もその方の現状に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行って頂いている。ご利用者によっては訪問歯科が口腔内チェック・清掃を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを確認しトイレ誘導を実施している。又、パッド・リハパン使用者も用途目的にて使用している。	殆どがリハビリパンツ使用の為、排泄表を参考に、時間・行動様子からトイレへ誘導し、見守り支援をしています。居室内の転倒防止の為、クッションマットを敷く人もいる他、今後は安全面を考え、ナースコールシステムを必要に応じ設置することも検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせての散歩や、運動を行っている。又、下剤に関しても一人一人に合わせた、タイミングや量を設定している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全面を考慮し大まかな時間設定はしているが、今までの生活歴に合わせて入浴できるようにスタッフ間で見守り方法やリスクについて話し合い、希望に沿えるように環境を整えている。	入浴は原則週2回ですが、9時～11:30、14:30～16:00の間は何時でも入れる様にしています。週4～5回入ったり、自立している人が20時頃に入る等、個々の希望に沿った支援をしています。一人ひとりお湯を変える等、衛生面にも配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅で使用していた布団を持って来て頂いたり、冷暖房の調節を含めて快適に休息できる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を各フロアに設置し常に意識し確認出来る様にしている。又、薬剤師に相談できる環境が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の要望や身体能力に合わせて、又、身体能力にて難しいと判断した場合でも楽しめるようなレクリエーションの提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員配置もあるが計画書におこし、個々の希望を全体、又は個別レクとして行えるように工夫している。	天気が良ければ公園迄、40分位の散歩に出掛けています。要望があれば職員が付き添い、毎日30分程散歩に行く人もいます。花見、外食、稲毛海岸へのドライブや敬老会での外食に、家族にも声をかけ喜ばれています。今後は個々の希望に沿った、個別レクリエーション支援に力を入れる事を検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の買い物にて支払いが可能な方は買い物の際には金銭の支払いをご本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の電話対応できる時間帯を把握しつつ、御本人には自由に電話や手紙のやり取りを行って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下はやわらかい色の電色を使用しており、場所に合った照明になっている。廊下には写真や飾りつけを行い、思い出を振り返られるように努めている。	リビング兼食堂は、明るく、清潔で、広く、温度・湿度も適切に調整され、利用者が居心地良く過ごせる様に配慮されています。観葉植物やテレビが置かれ、カレンダー、習字作品、歌詞、イベント写真が掲示され、生活感を感じます。食事時の席は決めています。他の時間は自由に座れる様にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に席の場所を決めている訳ではありませんが、ご利用者自身で居場所を決めています。又、レクリエーションの際は席に関係なく職員より全体での居場所づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れたものや馴染みの物を居室に置き又は、使用し居心地の良い環境作りに努めている。	居室は、エアコン・クローゼット・照明が備え付けで、清潔で適度の広さもあり、利用者が快適に過ごせる様になっています。利用者の好み・生活型に合わせて、ベッドがなく畳・クッションマット敷き部屋や、直にマット・布団敷きの部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がフロア環境を常に意識し歩行の妨げにならない様、物品の配置に努めている。		